

細江カトリック教会だより

新年号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15 ☎083-222-2294 📠083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

ベトナムのお正月



新年明けましておめでとうございます。

昨年新型コロナウイルス感染症で、苦しい一年でしたが、新しい年が皆さまの上に神様が祝福を与え、健康と平和、豊かな恵みに満ちた年となりますように心よりお祈り申し上げます。

さて、ベトナムの旧正月について少し紹介させていただきます。ベトナムでは、お正月の代わりに旧正月のお祝いが行われます。それはテトと言います。テトは旧暦に基づいて決められますので、毎年変わりますが大体1月後半から2月半ばまでの間に当たります。今回のテトは2021年2月12日（金曜日）となっています。

ベトナムの中で、一番長い休みはテト休みです。長い連休なので国内外で仕事する人も多いですが、やはりどちらかという、どんなに忙しくても帰省して家族と過ごす若者がほとんどとなります。

テトが近づくと、テトの花などの飾り物とお菓子、果物が、道でたくさん並んで売られます。それを見るだけでテトの雰囲気がいっぱい感じられるほど、街がとても賑わいます。

テトの前には家族みんなで大掃除をしたり、家の中の飾りつけをしたり、料理の準備や買い物をしたりします。大晦日には家族そ

ろって教会へ行き、一年間のお恵みを感謝しながら聖体礼拝を行っています。

元旦も家族そろって教会へ行き、ミサに与ります。その時は一人ひとりが聖書のみ言葉を引いて、一年間の「道連れのみ言葉」とします。ミサが終わった後、家族のみんなと一緒にお酒を飲んだり、バンチュンやバンテトなど（もち米で作られたケーキ）を食べたりして、お祝いします。そして、お年玉を渡す習慣もあります。基本的には、祖父母、親から孫、子供へ、赤や金色の袋に入れて贈ります。元旦にお年玉をあげる習慣はずっと前からありました。今年も良いことがありますようにと願いをこめて、贈るのです。これは日本の習慣と同じでしょう。

その後、子供が親戚や近所の家にお祝いにいきます。テト元旦から3日までは親族訪問、近所訪問、先祖のお墓参りなどをします。一日の日は父方の祖父母の家に兄弟、孫たちが集まって一緒にお祝いします。二日の日は母方の祖父母の家でお祝いします。三日の日は子供たちが先生の家を訪問し、いつも熱心に教えて頂いていることに対する、感謝の気持ちでクラスの皆が集まって一緒にお祝いするという習慣もあります。

ベトナムの旧正月はとても賑やかで雰囲気も温かいです。テトを通して家族の皆が食卓を囲んで談話をしたり、一年間の疲れを癒したりして、愛の絆が深く結び付くのです。

ディン神父





*ベトナムの正月の食卓

地区だより VII

安岡地区

今なぜコロナがやって来たのか。人間が、地球の環境を汚し尽くしどうしようもないことにしたから、ノアの洪水のように、神様からの啓示のようにも思われてなりません。

コロナの前と後では、世界が変わるとテレビでいろいろな方が、発言されています。

昨年12月はまだコロナが人々の間でとりざたされてはいませんでした。たった一年の間に業種によっては、窮地に立たされ、あれだけさかんに海外旅行に行かれていた方も行けなくなりました。

中国の思想書「淮南子」人間訓より

『人間万事塞翁が馬』が意味する「世の中に起きる悪い事も良い事も予期できず、それに振り回されてはならない。」

コロナで人間が見失っていた真理を、立ちどまり深くゆっくり考える必要があると、今改めて思っています。

人間の英知でコロナが終息し何の心配もなく、教会で聖歌を、声高らかに歌えることを願います。



深堀 一恵

待降節の黙想会に参加して

今年、新コロナの禍によって、ミサがあずかれなくなり、毎週のように私の生活にあった聖書との交わりやご聖体、復活祭もないことは、考えられない思いでした。今回、待降節黙想会に参加できて、久しぶりに神との対話をした思いです。

「申命記」という書物について、お話がありました。

あまり、読まないのですが、早速、申命記に興味を持ち読みました。

始めの章は、律法による民の生活を記したことが多くありました。

でも5章では、民が神への忠実を怠り、危機的な状態にあったので、モーセがイスラエルに「今日、私は掟と法を語り聞かせる」これを学び忠実を守りなさいと、ここに十戒が表されます。主は言われます「私は主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導きだした神である」とこの言葉は、度々書かれています。イスラエルの民をどんなに愛されていたことでしょうか。その後の章には神の愛を感じ共におられたかを知ることが出来る、言葉が書かれてありました。

「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きる」(8章)

「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」(6章)

最後にモーセの祝福(33章)は神の慈しみを感じる言葉がたくさんありました。

今年は思いも寄らない出来事で、私の生活も、どのようにしたらいいのか、迷える小羊のように、ただ、感謝と祈ることで、日々を過ごしていました。

今回の黙想で、作道神父さまが、「過去を振り返ることは、将来の力になりえる」と言われました。改めて、自分を振り返って見て、神さまが共にいて、愛されていたことを知ること、これからも共にいて力を与えてくださることを信じて生きたいと思いました。



林 妙子

コロナ禍のクリスマス

クリスマスのミサは子どもたちが主役であってほしいと思っています。でも、今年のクリスマスは暗闇の中をマリアさまとヨセフさまがお生まれなったイエスさまを飼い葉桶に運

ぶことができませんでした。天使役を楽しみにしてくれていた天使幼稚園児の参加もありませんでした。

ロウソクの灯をまわすことができないなら、何とかして光をまわす方法がないか、みんなで考えてみましたが、これも今年は中止、普段のミサになりました。

今、心の闇をかかえている人はたくさんいると思います。でも、神さまは慈しみと憐れみをもって必ず私たちを導いてくれるはずです。世界に光を灯してくださるキリスト・イエスに信頼して希望を持ち続けたいと思います。

「光の子として歩みなさい。」(エフェソ5-8)
キリストを信じる共同体みんなでこの困難な時を乗り越えていきましょう。

林 恵子



*12月24日主の降誕ミサにて

日本カトリック典礼委員会・編『キリストの神秘を問う 典礼暦年の霊性と信心』に E. シュヴァイツァーの名を見た。私の師の師である。来日された時サインを頂いた。彼が、自分に逆らって語られる言葉を聴かなければならない旨語られたと師の文章で知って以来、この言葉を意識し続けている。

待降節黙想会では、他者の役に立つために砕かれた者になることを受け取らせて頂いた。

さて、夜半のミサでは駐車場係、日中のミサでは聖体奉仕者としてミサに参加する恵みを得、作道神父様とディン神父様の説教で同じ言葉を聴いた。「無力」である。シュヴァイツァーに邦題で「無力な神の全能」「全能者の無力さ」という説教がある。神は愛するがゆえに無力である旨語られていた。

作道神父様からは、無力が神様のなさり方であることを、ディン神父様からは、無力であるが全能の神がどんな状況でも共に居て下さることを自分に逆らって語られる言葉の一部として受け取らせて頂いた。降誕祭の恵みの出来事である。

三村 隆治

キリスト教一致祈禱週間について

キリスト教一致祈禱週間は北半球では、1月18日から25日に行うことが1908年に提案され、1968年から現在のようにテーマが示されました。今年のテーマは「わたしの愛にとどまりなさい。そうすればあなたがたは豊かに実を結ぶ。」(ヨハネ5.5-9)です。

今年度のテキストはヨハネ15.1-17で皆さまもよくご存知の「イエスはまことのぶどうの木」が準備されました。今回のテーマはグランシャン共同体(スイス)が召命としている、祈り、教会の和解と一致、そして人類という家族との和解と一致を表現しているそうです。下関協働体では持ち回りで一同に会し、今年は長府教会にて集会を行う予定でしたが、このコロナ禍中止となり、各小教区で祈ることになりました。この週間の意義を理解し、共に祈りいただければ幸いです。第一日目の神のお言葉「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」。

第七日の祈り

いのちをもたらす炎、息吹である聖霊よ
わたしのもとに来て、とどまってください
一致への情熱を新たにしてください
あなたのうちにある、わたしたちを結ぶきずなに
気づかせてください
洗礼によってキリストを着るものとなった
すべての人がともに結ばれ、自らを支える
希望をあかしすることができますように。

大住 昭夫

*ベトナム青年たちが作成した馬小屋



ベトナムの青年たちの紹介

私はベトナム人のディン ディン ヒエウと申します。今まで、日本に3年間住んでいます。留学生として来日



しましたが、授業の後で、生活費の為にコンビニでアルバイトをしています。

しかし、他のベトナム人と一緒に細江教会のミサに参加します。それは、私にとって大きな神の恵みです。

勉強と仕事に疲れた時、私は神の愛に戻ります。神は私のすべての困難を克服するのを助けてくださいます。細江教会で皆さんと共にミサに参加したり、楽しく勉強したり、話したりすることは、日本での一番良い記念になると思います。神に感謝して、神の愛の中に、すべての皆さんに平和を祈ります。

ディン ディン ヒエウ



みなさん、いつもお世話になって

います。私はグエン ティ トウ チャン、27歳です。ベトナムから来ました。よろしくお祈りします。

2016年に留学生として来日しました。



日本に来たばかりの時、どこでミサに参加できるのか不安でしたが、友達が教会を探して教えてくれたので本当に嬉しかったです。日本へ来たばかりの時、日本語もあまりできなかったのですが、ミサの間は何もわからなかったです。でも、細江教会の信者さんにいろいろなことを優しく教えていただき、ありがとうございました。

毎週ミサに参加することができますので、心は安定しています。ミサが終わって、皆さんと一緒にランチをし日本語の勉強をします。でも、今までコロナウィルスだから、何もできませんでした。コロナウィルスが早く終わるよう、みなさんと一緒に祈りましょう！

細江教会は私の心に。

グエン ティ トウ チャン

Happy
New
Year

編集後記

・昨年末、大掃除ではベトナムの若者たちのパワー全開。もちろん人数制限の中でもシニアの力は、まだまだ捨てたもんでありません。頑張りました。爽やかな新年を迎えることができました。

・病気や体調がすぐれない方々に神さまの愛の息吹が届きますように……。足元まで来ているコロナウィルス。何の心配もなく教会のミサに与れることができますように。

・ディン神父さまのホームページ

[INORUHANA](#) を検索してください。

毎日の典礼、朗読箇所や教皇さまの祈り、神父さまの分かち合い(説教)が掲載されています。スマホでも簡単に見ることができます。

広報委員会



*昨年末12月大掃除にて